

# ことしの農作物

## その需給と価格の動向

〈47年度の農業観測〉から

農林省は去る4月17日、47年度の農業観測を発表したが、そのうち果実、野菜、イモ類、大豆、茶、繭（生糸）、米、麦など主な農作物の動向は次の通りである。

### 果 実

**ミカン** 毎年急増している栽培面積は、今年もかなり増えそうだし、単位面積当り生産量もかなり増える見込みなので、収穫量もかなり増える見込み。これに対し消費は、輸出を含めたカン詰用や果汁、生食用とも増えそうだが、生産の増え方が大きいので、卸売価格は前年をかなり下回りそうである。

**リンゴ** 最近生産面積が減少気味なため、作物を前年並みとみて、収穫量は前年よりわずかに減りそう。需要は高級種を中心に堅調とみられ、値段は前年をやや上回りそう。

**モモ** 収穫量は東北地方中心にやや増加。需要は引続き堅調とみられ、卸売価格はわずかに高くなりそう。

**ブドウ** 収穫量はわずかに増加、需要は生食を中心に順調に増えそうなので、価格は前年をやや上回りそう。

### 野 菜

価格安定策の実施や、稲作からの転換で、収穫量はわずかに増加する見通し。

**春野菜** 春一初夏キャベツ、春ダイコンは少し減るが、春キュウリ、春トマト、春ナス、春夏ニンジンなどは少し増える見込み。

**夏野菜** 夏ダイコン、夏ハクサイ、夏秋もののキュウリ、トマト、ナス、キャベツがわずかに増加。

**秋冬野菜** 施設物の冬キュウリ、冬トマトや北海道産タマネギが増え、冬キャベツ、秋冬ハクサイ、冬ニジンはいずれも前年並み。秋冬ダイコン、秋冬ネギはともにわずかに減少の見通し。

野菜の需要は個人消費の支出が伸びているため、引続き堅調だが、高級野菜への需要が次第に高まって行く。出荷価格は春野菜、夏野菜が前年並みかやや高め、秋冬野菜は、前年度気象の影響などから出荷が一時期に集中し、安値に終わったが、今年度はこれを上回る見通しで全体では前年並かわずかに高値の見込み。

### イモ 類

サツマイモの作付面積は去る35年以降毎年減っており、今年もかなり減りそう。経営も粗放化の傾向がみられ、収穫量は前年より減少の見込み。しかし、でん粉需

要が横ばいなど、需要も減り気味なので価格は前年並み。

春植えジャガイモは、作付はわずかに減りそうだが、収穫量は天候さえ良ければ北海道の作付が回復し、全体としては前年よりわずかに増加。値段は前年並み。

### 大 豆

作付面積は、畑への作付は前年に引続き減りそうだが、米からの転換で田の作付が大幅に増えそう、前年よりやや増加。収穫量は、減産した前年よりかなり増加しそう。需要も製油用、豆腐など食品用が増えそうだし、輸入大豆の直売が冬場より価格が全体的に強含み。

### 茶

値段が良いので最近生産面積が増えており、47年度の実績もわずかながら増えそう。消費も堅いので、値段は前年をやや上回りそう。

### 繭と生糸

養蚕農家は毎年減少しているが、経営規模は年々小さくなってきている。47年度の繭の収穫は、全体として前年並みとみられる。生糸は輸入がかなり増えそう、全体の供給量は前年をかなり上回りそう。

需要は、輸出は期待できないが、景気回復によって国内の消費がかなり増える見込み。したがって生糸や繭の価格は、前年をやや上回ると予想される。

### 米と麦

米 250万トンの生産調整をすることになっており、作付面積は前年並み。しかし、収穫量は北日本がひどい冷害にやられた昨年と比し、かなり増えそう。

消費は1人当りの消費量が減少を続けているので、全体として今年もわずかに減りそう。

麦 国内生産は毎年急激に減っている。今年も六条大麦やハダカ麦が大幅に減るのをはじめ、軒並みに減少。

## 47年度農産物生産・価格の見通し

(対46年度比)

農 業 生 産	3～5%台	↗
農 産 物 価 格	2%台以内	↗
農 業 総 産 出 額	3～5%台	↗
農 業 資 材 価 格	2%台以内	↗
生 産 農 業 所 得	6～15%台	↗
品 目	生 産 量	価 格
米	6～10%台	↗
麦	6～10%台	↘
生 乳	3～5%台	〇～5%台 ↗
牛 肉	3～5%台	↗ 2%台以内 ↘
豚 肉	3～5%台	↗ 2%台以内 ↘
鶏 卵	2%台以内	↗ →
ミ カ ン	11～15%台	↗ 6～10%台 ↘
リ ン ゴ	2%台以内	↘ 3～5%台 ↗
ブ ド ウ	2%台以内	↗ 3～5%台 ↗
野 菜	2%台以内	↗ 2%台以内 → ↗
茶	2%台以内	↗ 2%台以内 ↗
大 豆	11～15%台	↗ 3%台以内 ↗

(注) ↗は増加または値上り、↘は減少または値下り、→は横ばい。